

# 江戸の坂

歴史散歩

品川区の坂めぐりは小山、荏原、旗の台界隈を歩く。

東急目黒線西山駅の改札を左折、2本目を右折して「銀座通り」を進む。二つ目の十字路から江戸見坂の上りになる。大正の初めごろまでは、坂上から西に富士山、北東に東京の市街が遠望され、東南に大井・大森の海が見えたという。

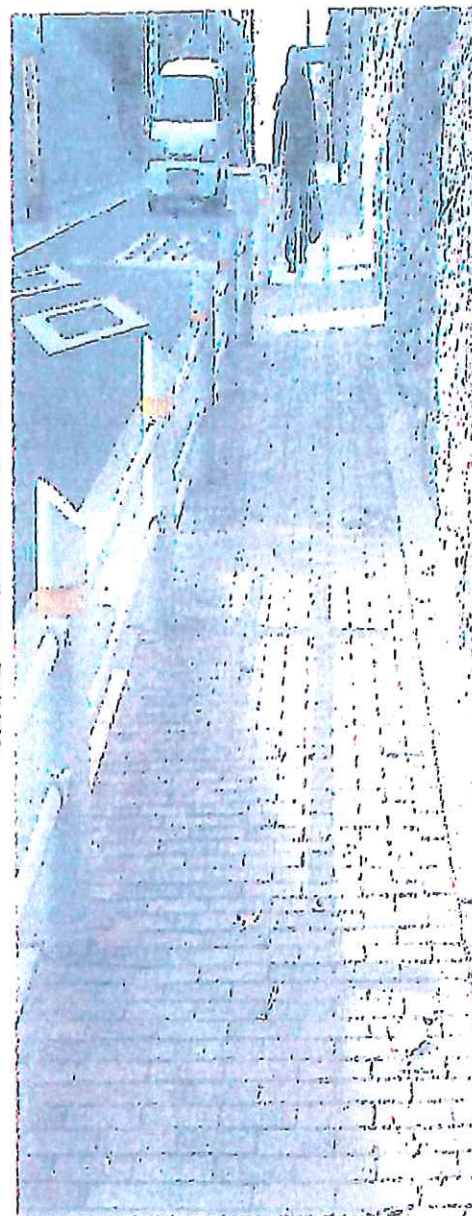
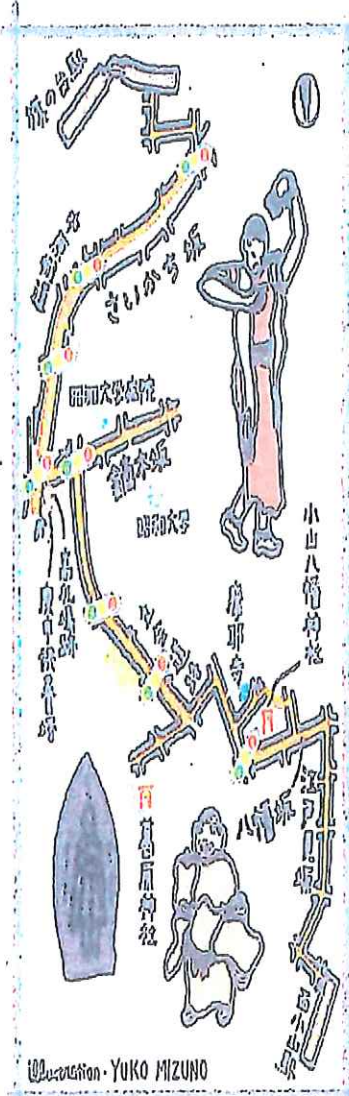
坂上の十字路を左折すると八幡坂の下り。小山八幡神社の北側を走る。江戸見坂と八幡坂は、昔は農道だったが、昭和初期に整備され、坂名がついたと思われる。八幡坂を下り、1本目を右折して小山八幡神社に入る。境内にシイの巨木がある。鳥居を出て右折すると摩耶寺がある。延宝6(1678)年に作られた木造摩耶夫人立像が

## 鍋木坂(品川区)

安置されている。摩耶夫人とは釈迦の生母のこと。山門を右、左折し立会道路を横断していくと、左手に葛原神社がある。中延村の旧家・鍋木氏の守護神として祀られている。

鍋木氏は千葉氏(平氏の流れ)の末流で、弘治2(1555)年に下総(千葉県北部)から移住してきたという。元の立会道路に戻り、左折して榎並木を進む。昭和大学病院の手前を右折すると鍋木坂の上り。この辺りに鍋木本家の屋敷があった。坂下を直進し、中原街道を左折する。旗の台1丁目2に高札場跡がある。法度や掟書などを記した板札が立っていた。また、すぐ北側には、寛文5(1665)年に造立された麩申供養塔が静かにたたずんでいる。中原街道を右折して進むと、

緑に包まれた「さいかち坂」の上りになる。坂の両側にさいかちの木があったとか、坂の右手がさいかち原と呼ばれたのが坂名の由来だ。坂下から旗の台駅へ。(坂道研究家・山野 勝)



鍋木坂＝全日写連会員・富川和寿さん撮影